**オオサキワンダーミュージアム　人と大自然の青空博物館**

**Vol.54（最終回）　おおさきアカデミーを開催しました!**

問い合わせ 農政企画課世界農業遺産未来戦略室　電話23-2281

大崎地域世界農業遺産推進協議会では、世界農業遺産「大崎耕土」の生物多様性の保全を目指し、農業と地域環境を支える次世代育成に向けた「おおさきGIAHSアカデミー」を開催しています。

令和6年度は、「大崎耕土」の地域資源であるラムサール条約湿地「蕪栗沼・周辺水田」を題材にしたプログラムに、古川黎明高等学校やオンラインで仙台育英学園高等学校も参加して行われました。

プログラムでは、環境省による講義、蕪栗沼でのマガン観察やワークショップなどを実施しました。

生徒たちは、ワークショップを通じて蕪栗沼の価値を共有し、「大崎耕土」の自然環境の豊かさや人々の関わりについて学びを深めました。

市では、11月に「蕪栗沼・周辺水田」がラムサール条約登録20周年を記念したシンポジウムを開催し、おおさきGIAHSアカデミーに参加した生徒たちの発表も予定しています。

**みんなでエコっペ！～やってみよう「エコ活」～**

問い合わせ 環境保全課環境保全担当　電話23-6074

～Vol.16（最終回） 紙のリサイクル～

みなさんは紙のリサイクルをしていますか。紙はパルプ用材という木材でできています。紙のリサイクルをすることで、新たに使用される木材（パルプ用材）の量を抑制することができ、森林の保全にもつながります。

また、ごみとして処理される紙の量を削減することで、ごみの減量化にも貢献します。日本の古紙の回収率は80パーセントを超えており、世界の中でもトップクラスを誇っています。紙をごみとして捨てる前に視点を変え、新聞、段ボール、雑誌、雑がみ、飲料用パックなど種類ごとに分別し、貴重な資源としてリサイクルを心がけましょう。

今後は、市ウェブサイトでお知らせしていきます。

**市長コラム　天地人**

**日本語学校開校**

大崎市立おおさき日本語学校が、4月にいよいよ開校します。

旧西古川小学校を利用したキャンパスも完成しました。古川地域中里地区にある旧保育所跡地に、民間で建設し、運営する学生寮も開所しました。

また、留学生の最寄り駅である陸羽東線西古川駅も有人化し、西古川地区、中里・駅南地区を拠点に交流事業への取り組みも動き出しました。

本市は、少子化を逆手に、ピンチをチャンスに変えて、多文化共生社会へ船出します。

少子化は急速に進行し、昨年の全国の出生数は72万人、統計開始以来最少となりました。

その影響で、本市の小学校も17校が閉校・統合の選択を余儀なくされました。

一方で、日本で学び、働くことを目指す外国人留学生は年々増加しております。

日本で暮らす外国人は約360万人。そのうち約10万人が、日本語学校で学んでいます。

しかし、日本語学校の教育体制は質が十分でないことが社会的問題でもありました。

こうした状況を踏まえて、文部科学省は昨年、日本語教育機関認定に基づく新制度を導入し、全国に約870校ある日本語学校や開設希望者に認定を呼びかけ、10月末に初の認定校22校が審査に合格しました。

おおさき日本語学校は、公設・公営の日本語学校として全国初、第一号の認定日本語教育機関校です。

地域の活力となる有為な人材を育むモデル校を目指し、県、企業、地域と連携し、海外からも選ばれる大崎市のまちづくりを進めてまいります。

市民皆さまのご協力をお願いします。